

創刊号

こんにちは。今回から1年間、日本の最新医療・これから開発されていく医薬品について、治験を絡めて紹介していきたいと思えます。

新たな治験活性化5ヵ年計画って？

欧米に比べ、日本の新薬開発は2年半遅れていると言われていています。  
(ドラッグラグといえます。)

ドラッグラグを解消するために、医薬品の治験・臨床研究実施体制を整備し、日本発の革新的医薬品の創出することを目的とした計画で主につぎのようなものがあります。

- (1) 治験・臨床研究を実施する医療機関の整備をする
- (2) 治験・臨床研究を実施する人材を育成し、確保する
- (3) 国民への普及啓発と治験・臨床研究への参加を支援する
- (4) 治験・臨床研究の効率的な実施と、企業負担を軽減する

これから開発が予想される新薬・治療法(あくまでも予測です)

- ◆ 肥満を効果的に改善する薬物(2021年)
- ◆ 経口によるインスリン治療法(2021年)
- ◆ がんのオーダーメイド治療(2023年)
- ◆ 糖尿病の遺伝子治療法(2027年)
- ◆ がんに対する遺伝子治療法(2029年)
- ◆ がんを効果的に予防する化学予防薬(2030年)



チーム・治験 (2007年製薬協で実施された治験啓蒙キャンペーンです)

安心してご参加いただけるよう、治験は多くの人に支えられて行われています。医師、薬剤師、治験コーディネーター、看護師、製薬企業、そして患者さんとそのご家族。治験に関わる全ての人が「チーム・治験」です。

